

おかやまコープ。暮らしをつくる Vol.2

独特の精神風土

三宅 岡山県には国際NGO団体が現在百十九団体あります。こんなに多いのは非常に珍しいのですが、国際貢献活動が盛んな理由としては、岡山県独特の精神風土がよくあげられます。

主には、教育県であること▽芸術文化を尊重する精神▽福祉を重視する考え方▽高いレベルの医療教育▽宗教への信仰心があること一などです。また、岡山県は国際貢献活動の推進条例を全国にさががけてつくってしま

す。私どものNGO(岡山ユネスコ協会)は姉妹校縁組に取り組み、これまでに二十組成立させてきました。姉妹校になると国際交流への道は早いですね。私は「おもいやり 地球市民のパスポート」という言葉を提唱していますが、国際貢献には何より思いやりの心を持つことが大事だと思うんです。家庭愛から、地域愛、国への愛、つまり愛国心につながっていくんですが、それに加え、グローバルな視点で「宇宙船地球号」の乗組員のひとりであるという意識も持たなければいけないということです。

そのための第一段階が国際理解です。まず勉強し、現状を理解する。分かったら第二段階の交流へ移ります。交流するうちにさまざまな問題が分かり、自分にできることがあれば第三段階の協力・支援という動きが生まれる。隣人に不幸があったら手を差し伸べるのは人間として当たり前の行為ですが、こういう意識を持つ人たちが集まって国際貢献活動となるんです。

吉永 私は今年五月に日本ユニセフ協会岡山県支部代表となりました。三年前までおかやまコープの理事長をしていましたので、ユニセフの活動をコープの側とユニセフの側の両面から見えています。

募金活動通じきずな

(財)日本ユニセフ協会岡山県支部代表

吉永 紀明氏

岡山県は医療支援、子どもの人権擁護など多彩な国際貢献活動の拠点となっており、この運営を継続的に支えてきたのが県民や地元企業の揺るぎないボランティア精神だった。こつした全体像を踏まえながら、岡山の国際貢献の現状とその底流にある精神風土、企業などとの連携による成果や展望について、日本ユニセフ協会岡山県支部の吉永紀明代表(おかやまコープ常任顧問)、国際医療支援ボランティアAMD Aボランティアセンターの小池彰和センター長、おかやまコープの三宅正勝有識者理事(岡山ユネスコ協会会長)の三氏が意見を交わした。

などの社会事業を行っています。ときは隣の県が大被害を受け資金の75%が各国からの拠出金 たというので、精神的に燃えただ、残り25%が民間からの募金と ですね。AMD Aも一カ月に なっており、おかやまコープから わたり支援しました。その延長の募金も最終的には国連児童基金へ集められています。

日本ユニセフ協会岡山県支部は「困った時はお互いさま」とい一九八八年、全国十九の道府県にう相互扶助の気持ちなんです。ある支部の中では全国で三番目に AMD Aは国連経済社会理事 つくられました。私の前に代表だ 会の総合協議資格を持つてお った福武れい子さんのお父さんがり、菅波は英語で会議に臨むん 県支部設立を提唱しましたが、そ ですが、「ソウゴフジョ」(相互 のとき日本ユニセフ協会の専務理 扶助)「という言葉をそのま 事をしていたのが橋本龍太郎さん ま使ってその精神を伝えようこ のお母さんの正さんだったんで しています。

AMD Aは一九八四年に創立 三宅さんのおっしゃった国際貢献 し、実際の活動に入ったのは九 の精神風土が、やはり岡山にある 〇年代からです。今日までの海 外緊急救援活動数は四十七カ んだなと思いますね。

小池 岡山の精神風土について 国、百八回に上ります。九月十 AMD Aグループ代表の菅波は 日現在やっているのはパール 「岡山は、弱者が存亡の危機に立 とインダの洪水被害者の支援で ったときに立つ」と言っています。す。八月十八日に災害が発生し 「岡山は二度燃えた」とも言っ たいと思いますが、AMD Aはネ いるんですが、ひとつは一九四五 パール支部の先生から要請を受 (昭和二十)年の岡山空襲。次が けて二十一日から活動を開始 阪神淡路大震災です。一度目は物 し、必要な物資、資金など後方 理的に燃えたんですが、二度目の 支援を提供しています。

おかやまコープとの連携

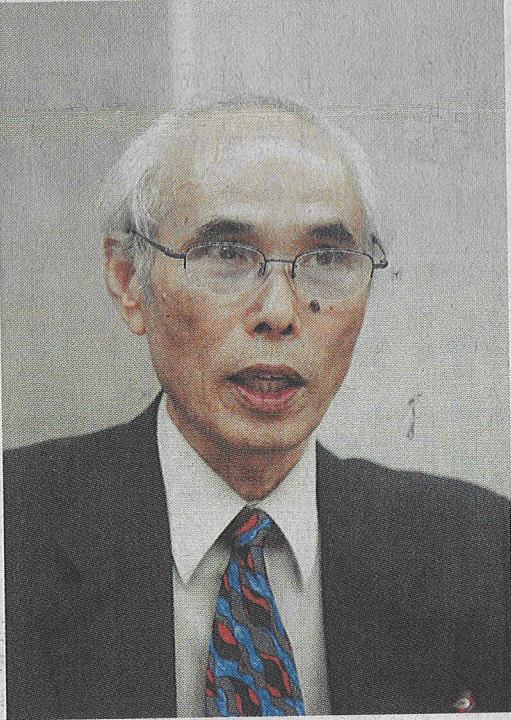
三宅 コープへかかわらせてい います。ユネスコは、平和の文化を根 だいて強く感じるのは貢献マイ 付かせなければいけないと呼び ンドが非常に高い団体だというこ 掛けておきます。戦争は人の心 結んだりユニセフとも長年協力し の中に起きるものであるから、 たりしているんだらうと思いま 人の心の中に平和の砦を築かな ます。ユネスコとしてもおかやまコ ければならない。その平和を構 ープとのさらなる連携を期待して 築するためには、コープのよう



よしなが・のじあき 1965年、北海道酪農学園大卒。同年、日本生活協同組合連合会入協。92年、生活協同組合おかやまコープに移籍。95年、同理事長。2006年から同常任顧問。2008年から現職。

「国際貢献」~おもいやり 地球市民のパスポート

おかやまコープ 有識者理事
三宅 正勝氏



みやけ・まさかつ 1956年、岡山大学教育学部卒。94年から岡山ユニネスコ協会会長。就実短大教授、岡山県国際団体協議会理事長、日本ユニネスコ国内委員会委員などを務め、2000年から現職。

AMDAボランティアセンター長
小池 彰和氏



こいけ・あきかず 1953年、東京外国語大中国語科卒。同年、石川島重工業(現IHI)に入社、船舶の輸出営業に従事し、香港、北京などに駐在。97年、AMDAに入り、総務局長などを経て2008年から現職。

困った時はお互いさま

日本ユニセフ協会岡山県支部には現在三十人の運営委員がいますが、おかやまコープは設立時からずっと運営委員として参加しています。

小池 おかやまコープとAMDAは去年十月、緊急救援に対する協定を交わしました。その前からの寄付も含めてこれまでに七回、合計三百三十万円の寄付をいただいております。去年では六月のパキスタン南部サイクロンをはじめ、新潟中越沖地震、ペルー沖地震、バングラディッシュサイクロンなど計五件。今年に入ってから、ブータン難民キャンプ、ミャンマーサイクロン、四川大地震と続いています。

AMDAは百パーセント寄付や援助によって活動していますが、コープもひとつの団体としてみれば、一番(支援の)すそ野が広い団体じゃないかと思つてます。それだけ多くの方に支えられた団体からAMDAに支援をいただけるというのは、喜びであると同時に強みかもしれません。AMDAは世界中の方に支えていただいています。何と云っても岡山への支えが一番大きいんです。

平和な社会求めて活動

小池 国際協力とは困った人を助けることだと理解している人もいますが、それでは五割しか当たっていないと思つてます。なぜなら助けられることもあるからです。私は戦前、戦後を経験しましたからユニセフから援助を受けた粉ミルクやパンを食べていたでしょうし、ララ物資などほかにも国際的な援助がたくさんありました。こうした援助を受けてわれわれは日本を立ち上げてきた、ということこそ私は忘れることができないんです。今度は逆に助ける番がきた。そしてまたいつか助けてもらうときもくるかもしれない、というのが国際協力というものだと思います。

二〇〇五年に国連経済社会理事会のボランティア委員会に菅波が呼ばれたとき、アジアの国際協力の基本はチャリティーではなくフレンドシップだと説明しました。苦楽を分け合い、気持ちを通じあつて問題解決していく関係だ。ただしフレンドシップは問題が出てくるとこれだけやすい。こうした問題を乗り越えたら、フレンドシップはパートナーシップという(より強い)関係に変わるんだと言いました。困難にぶつかったとき、この人は逃げないんだという気持ちで相手に持たせれば、そこに信頼の念が生まれます。また問題解決の中でお互いの知らない能力が見えて尊敬の念も生まれます。国際協力とは、この信頼と尊敬がなければお互いに成り立たないんだという話をしたんだそうです。これは国際協力のあるべき姿を示唆していると思います。

三宅 今後の国際貢献活動においておかやまコープに望むことがあるとすれば、他の団体との連携をもっと増やしていただきたい。特に非常に小さな人数で国際貢献しているグループにも、何らかの形で援助してあげようというだけだとありがたいと思えます。

吉永 児童労働やストリートチルドレンなど子どもたちの置かれている状況は社会の反映です。ユニセフ活動はそういう結果に対応しているんですが、私は併せて、根本である平和な社会を求めていく活動が大事だと思っています。

一方、コープの社会的貢献活動でも国際貢献については「平和な世界と子どもたちの幸福への貢献」という柱を立てています。平和な社会でなければ子どもの安心・安全は生まれないんだという基本の部分でユニセフはコープと手を携えて、頑張っていきたいと思えます。

これからの国際協力

企画・制作/山陽新聞社広告局

岡山から世界へ、支援の輪が広がる

AMDA 募金活動

10月は「おかやまコープAMDA募金月間」
〈募金取り組み期間:10月1日~31日〉
募金袋・商品注文書・店舗募金箱で実施しています。

救える命があればどこへでも
AMDA募金にご協力ください

10月はおかやまコープのAMDA募金月間
募金は募金袋・共同購入注文書・店舗募金箱で受け付けています
〈募金取り組み期間 10月1日~31日〉

AMDAとおかやまコープの協定式(07年10月)

生活協同組合おかやまコープ

インフォメーションセンター ☎0120-662-538 <http://okayama.coop/>

Hand in Hand 11月・12月はハンド・イン・ハンド募金月間

unicef 募金活動

ユニセフ ハンド・イン・ハンド*(12月)
ユニセフ おかやまコープお年玉募金(1~2月)

※国際児童年の1979年12月31日に、「子どもたちのために手をつなごう」という呼びかけではじまりました。「手に手をとって」世界の子どもの幸せと明るい未来を実現するために、市民一人ひとりがボランティアとして参加するユニセフ募金活動です。毎年12月はハンド・イン・ハンド月間として全国各地のボランティアが学校や職場、家庭での募金、街頭募金など、さまざまな方法で参加しています。

守りたい。子どもたちの命、アフリカの未来

おかやまコープハンド・イン・ハンド(07年12月)